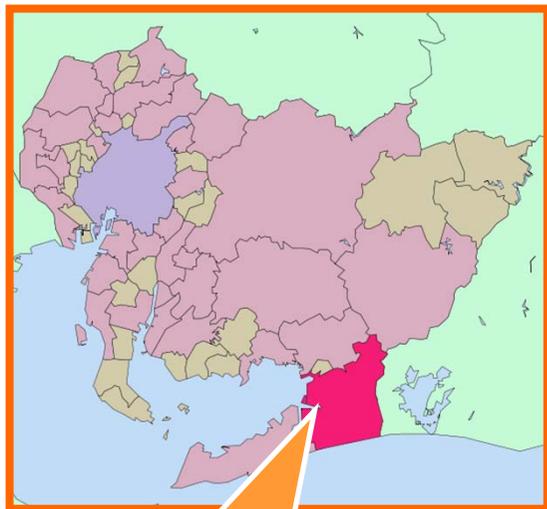


がん地域連携パスへの歩み

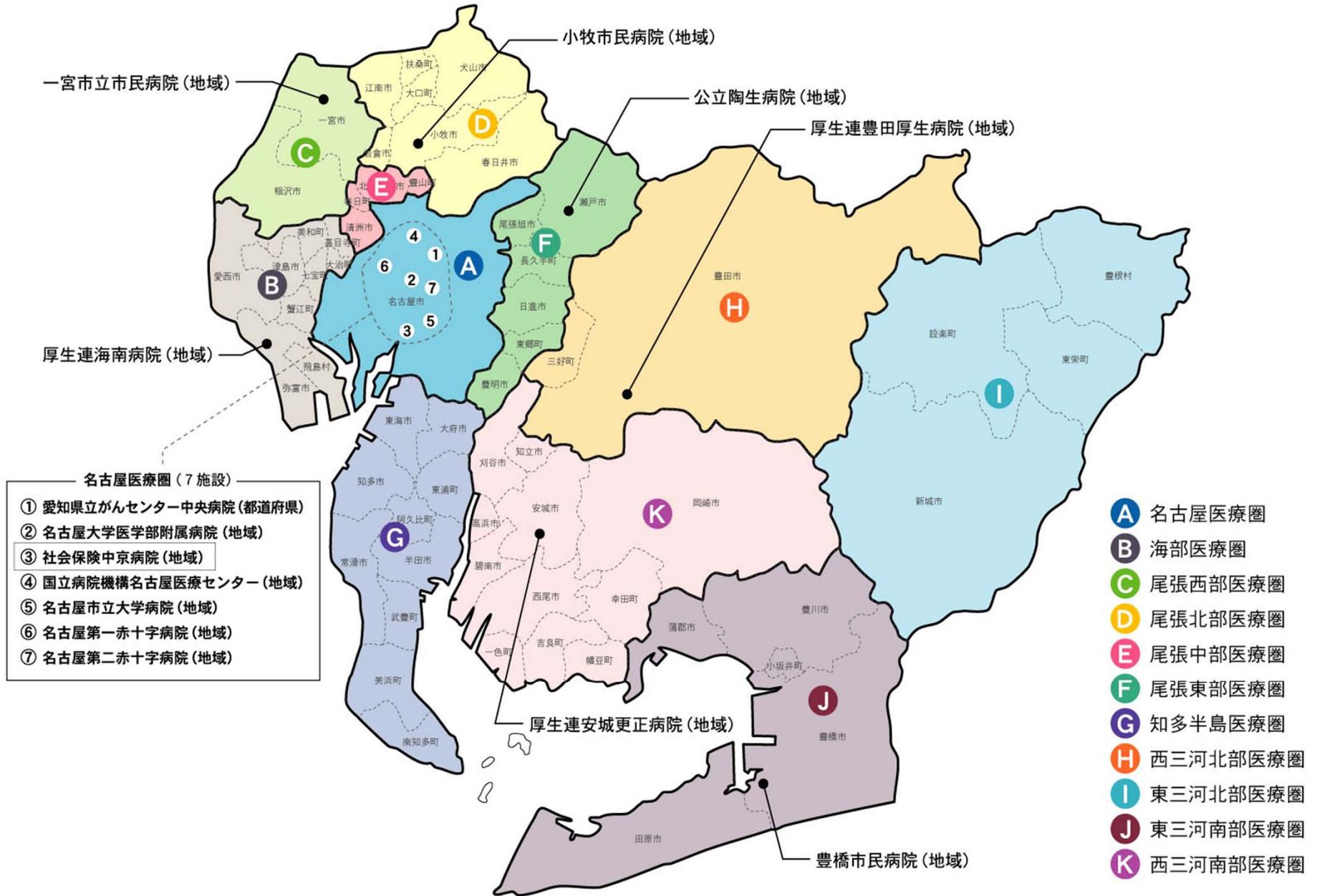


豊橋市民病院



豊橋市民病院
患者総合支援センター

愛知県のがん拠点病院(厚生労働大臣指定) (2010年4月)



本日の内容

- パス導入に向けた当院での取り組み
- コーディネーターとしての業務内容
- 現在のパスの状況
- 患者の声
- まとめ



がん地域連携パス導入に向けた 当院の取り組み

- 院内がんパス部会の立ち上げ(医師、医療相談室、医事課の11名)(2008・6)
- 豊橋市内の医療施設15施設とパスに向けての話し合い(2008.12・2009.2)
- 院内がん地域連携推進ワーキング委員会設立(医師、看護師、薬剤師、医事課、医療相談室の13名)
愛知県統一地域連携パスのためのネットワーク参加及びアンケート調査を医師会に依頼。アンケート実施施設441施設(2010.2)
- 第1回がん地域連携パスネットワーク会議開催。47施設参加(2010.7)
- がん地域連携パスについての院内説明会開催(対象:外科、内科医師、外来看護師、対象の病棟看護師)(2010.7)
- 48施設の連携病院が施設基準の受理される。(2010.9)
- がん地域連携パス運用開始(2010.9)
- 第2回がん地域連携パスネットワーク会議開催。29施設の参加あり(2011.3)
- がん連携パスネットワーク参加施設69施設(2011.8)

患者の状況把握と コーディネート業務

1. 必要書類、用品の確保
2. 患者の状況把握、説明及び広報活動
3. 個別患者のための書類作成
4. 連携先施設の選択
5. 患者、連携医、病院主治医間の連絡調整のコーディネート業務
6. 患者との継続的な関係維持
7. 診療予約、検査予約や、医師間の相談の設定
8. 緊急時の受診や入院の手配

コーディネーター業務の流れ

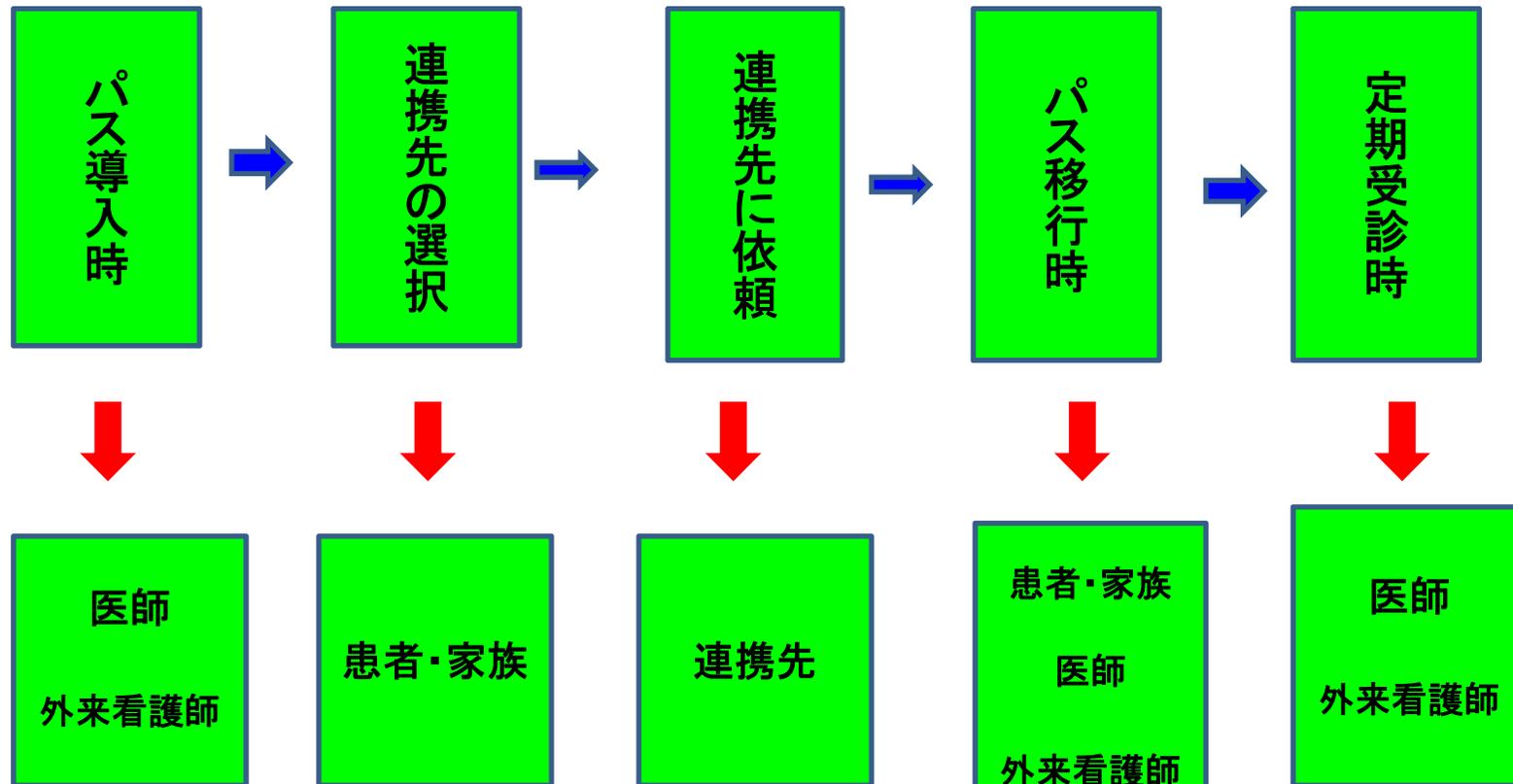
1. 同意書を受け取り、患者情報、パスの種類、連携先の状況把握する。
2. 患者外来受診時、医師からパス開始の情報を受ける。患者と相談し、連携先の決定をする。
3. 連携先に承諾を得る。
4. 次回外来受診日までに、資料の準備をする。
5. 患者外来受診後、資料の記載内容を確認し患者に渡す。連携先、当院の次回受診の方法の説明、予約受診日を伝える。
6. 連携先に必要書類を送付する。
7. 医療者用連携パス(共同診療計画書)を電子カルテ内に取り込む。
8. 患者受診日に、次回診察、検査予約取得の説明を外来看護師に連絡。
9. 診察結果の診療情報提供書を連携先に送付する。

連携先施設の選定の原則

1. 紹介元の医療機関がネットワーク参加病院である場合は紹介元
2. 紹介元の医療機関がネットワーク参加病院でない場合。ネットワーク参加病院であっても患者と相談の結果によって、紹介元でない医療機関となる場合もある



コーディネーターの関わり



地域連携パス実施患者数

		胃がん	大腸がん	乳がん	肺がん	肝臓がん	合計
同意書を得た患者数		39	71	50	14	0	174
連携パス実施患者数		29	35	9	4	0	77
内訳	豊橋市	25	28	6	3	0	62
	豊川市	1	4	2	1	0	8
	新城市	0	0	0	0	0	0
	蒲郡市	2	3	0	0	0	5
	田原市	1	0	1	0	0	2
	北設楽郡	0	0	0	0	0	0
当院での継続患者数		5	24	8	4	0	41

当院で継続受診になった理由

1. 病状の進行
2. 当院で他科にも受診
3. パス開始時期
4. 近隣に連携医がない
5. かかりつけ医が連携医でないため当院で継続受診
6. 連携医ではない、かかりつけ医に受診

パス実施中の患者の声

【メリット】

1. 連携医と当院での診察により安心
2. かかりつけ医ができた
3. 当院への通院労力及び診察時の待ち時間からの解放

【デメリット】

1. 連携医では単科しか診察できない



まとめ<1>

【問題点】

連携パスに対する当院医師の認知不足

1. 連携パス自体を知らない
2. 連携パスの運用方法を知らない

【対策】

1. 連携パスに対する医師への周知
2. 医師を補助する看護師との協力

まとめ<2>

【問題点】

ネットワーク参加施設の不足

【対策】

ネットワーク参加への呼びかけ
連携医の開拓

